

マリレ情報よろず屋

平成 26 年 1 月発行第 17 号
第二管区海上保安本部
マリレジャー安全推進室

マリレジャーに関する安全情報など様々な情報をお届けします！

新年明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひいたします。



海の事故情報 12月中のマリレジャーに伴う海難・人身事故の発生状況

海浜での人身事故

- ①【海浜事故】12月18日、前日から八戸港に夜釣りに出かけた会社の同僚3名が帰らない旨、家族から会社を通じて警察に通報がありました。3名の車が海の近くで発見され、釣り中に海に転落した可能性があったことから、釣りをしていたと考えられる場所付近の海上を巡視艇や航空機で捜索するとともに、陸上からも捜索を行ったところ、12月19日、近くの消波ブロックの間の海上で3名とも遺体で発見されました。(3名ともライフジャケット着用)



このほか、岩手県釜石市の海岸でも、釣り人1名が行方不明になっています。

夜釣りをしていて海に転落する事故が続発しています！

夜釣りは、日中に比べて周囲の状況を把握し難く、海に転落するリスクも高くなります。また、海に転落した場合は発見が難しく、救助するのも困難になります。十分な照明を準備して、海中転落しないように慎重に行動しましょう。岸壁等には梯子が設置されている場所もありますので、事前に確認しておきましょう。

消波ブロック上は足場が狭く不安定なうえに、隙間に転落すると自力では這い上がれないばかりか、救助作業も困難になります。消波ブロック上での釣りはやめましょう。

立入りが禁止されている場所での釣りは厳禁です。

海の安全情報 港内等の徐行について

小型の船でも高速で航行すると航走波(船が航行することによって発生する波)が大きくなります。

特に港内では、係留中の小型船が航走波を受け急に大きく揺れて、乗船している人が海に転落するなどの事故につながる場合がありますので、スピードを抑えて航行しましょう。また、湾内の静かな海域で養殖漁業などの作業をしている小型漁船がいる場合も、近くを航行する際にはスピードを抑えて航行しましょう。



ワンポイント講座 事故防止等のためのワンポイント講座。『事故発生時の通報』

今回は事故が発生した際の通報事項についてのお話です。事故は起こさないことが何よりですが、万が一事故に遭遇した場合は、直ちに人命・船舶の救助を行うとともに、海上保安庁（118番）などの救助機関に次の事項を通報してください。緊急時は、信号紅炎などを使用して周囲の船に知らせ、救助を求めることも必要です。



○ 通報者の名前

例：「私は海野太郎です。」

○ どのような事故か（衝突、転覆、急病、海中転落等）

例：「船のエンジンが故障して航行できません。」

○ 事故発生場所（通報場所）はどこか（場所がわからない場合は、出港場所と事故発生場所への航行方向・時間等）

例 1：「今の場所は、石巻湾です。GPS に表示されている位置は、北緯 38 度 16.7 分、東経 141 度 17.1 分です。」

例 2：「今の場所は、石巻湾です。詳しい位置はわかりません。塩釜から出港して、東に30分くらい航行しました。船のスピードは20ノットくらいです。」

○ 傷病者の人数、傷病の状況、実施した措置

例：「乗船者には異常ありません。」

○ 船の状況、実施した措置

例：「燃料はあります。セルも回りますが始動しません。修理はできません。」

○ 船名、船種、乗船者数、船体の特徴（色や形等）

例：「船名は海丸です。乗船者は全部で3人です。長さ7mのモーターボートです。船体は白色で、両側に青い線が入っています。」

○ 今通報している以外に利用できる連絡手段

例：「一緒に乗船している2人も携帯電話を持っています。名前は〇〇、番号は〇〇です。」

○ その他参考事項

例：「北よりの風が少し強くなってきました。南に2～3kmくらい離れた場所を大きなフェリーが仙台港の方に走っていくのが見えます。」

海の言葉 海や船に関する用語について解説します。『波浪、風浪、うねり』

波の種類も様々ありますが、波浪と風浪、うねりはどこが違うのでしょうか。気象庁の予報用語では、次のとおり解説されています。

波浪：海洋表面の波動のうち、風によって発生した周期が1～30秒程度のもの。風浪とうねりからなる。（波：波浪と同じ）

風浪：その場所で吹いている風によって生じた波で、個々の波は不規則で尖っている。発達した風浪

ほど波高が大きく、波長や周期は長い。

うねり：遠くの台風などにより作られた波が伝わってきたもので、滑らかな波面を持ち、波長の長い規則的な波。



防波堤に寄せる大波

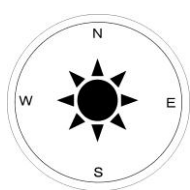
台風などにより発生する大きな風浪は、大きなうねりとなって遠く離れた場所まで高さを保って到達します。台風が去った後も、しばらくの間、海岸には大波が打ち寄せることが多いので、台風通過後に良い天気になっても注意が必要です。船を出すときや磯で釣りをするときは、あらかじめ気象情報をチェックして予想される波の高さも確認しましょう。

沿岸域情報提供システム(MICS)*の気象現況の波高は、レーダー反射を利用して海上のある1地点を観測して提供しています。海には高い波や低い波が混在し、複雑な波の状態を端的に表すために用いられるのが「有義波高」と呼ばれるもので、MICSの波高も「有義波高」で提供しています。「有義波高」とは、一定期間の波の高さを観測し高い方から順に1/3個数の波を抽出し、その波高を平均化したもので、目視により観測された波高に近いと言われています。「有義波高」は、一番高い波高でも単なる平均の波高でもありません、時にはMICSで提供する波高よりも大きな波が来ることもありますので、注意して下さい。

* 沿岸域情報提供システム(MICS)：海上保安庁では、主な灯台で観測した最新の気象・海象情報、海上工事・作業情報など地域に密着した「海の安全に関する情報」をインターネット等でリアルタイムに提供しています。MICSは、次のURLから↓↓

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/>

羅針盤 編集担当者の四方山話的コラムです。『日本海』



日本海側では、太平洋側に比べると、夏と冬の天候に大きな差があります。日本海側の夏は好天で比較的穏やかな日が多く、冬は曇り空と強い北西風が何日も続きます。

冬の日本海のイメージは、鉛色の空の下、海からの風が吹き荒れ、海岸には大波が寄せて波の花が舞い散り、バックには「津軽しょんがら節」の津軽三味線が鳴り渡る、というような感じでしょうか。一方で夏の日本海は、蒸し暑い一日の終わり、砂浜に寄せる波も穏やかに、鏡のような海面が真っ赤に染まる夕日を映し出し、バックには矢沢永吉の「時間よ止まれ」がゆったりと流れる、といったイメージ。

以前、ご主人の転勤で初めて太平洋沿岸の町で生活することになった日本海沿岸出身の奥さんから、「冬に布団干しができるとは思わなかった」という話を聞いたのが印象に残っています。同じ東北でも日本海側と太平洋側では、それだけ天候の差が大きく、そこに住む人々の生活様式も異なってくるのですね。

ボートもこの時期は冬籠りという方も多いと思いますが、やがて来る春に備えてぼちぼち点検・整備をお願いします。



大切な命! 自分で守る



海上保安庁では、大切な命を自分で守るため、そして、一人でも多くの人を救助できるよう、次の3つを基本とする「自己救命策確保」を推進しています。

ライフジャケット
の常時着用



携帯電話など
の連絡手段の
確保



救助要請
は118番

海のもしものは!
118

本紙を印刷物でご覧の方へ

マリレ情報よろず屋をホームページからご覧になる場合は、次のURLから! 「マリレよろず屋」で検索してもヒットします!

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/index.htm>

マリレよろず屋

で

検索

